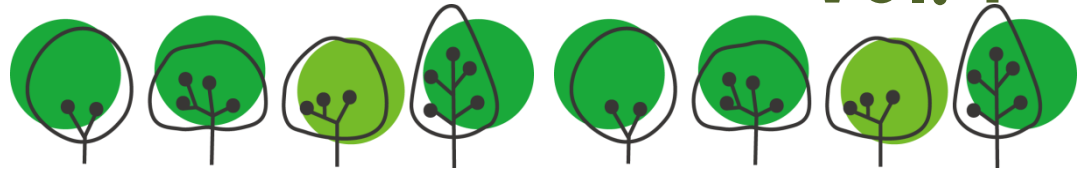




木地師のふるさと

vol.4



「アーカイブ・プロジェクト」資料整理を進めています

寄附や購入で収集した資料や製品の整理・分類を行い、民俗文化財への登録を目指す取組を進めています。前号のニュースレターでボランティアを呼びかけたところ、市内外、県外から延べ66名の方々にご参加いただきました。

今年度は計8回実施し、約1,000点ある資料や製品のうち約360点について、計測や写真撮影が終了しました。珍しい製品が出てくるともあり、実際に資料や製品に触れながら、ボランティアの方々も興味深く作業を進めています。

作業開始前には、須藤護さん（龍谷大学名誉教授）から木地師の道具や文化に関する解説もあり、毎回新たな学びがボランティアの方々にも好評です。

来年度は5月から作業を開始する予定です。興味のある方は是非企画課までお問い合わせください。



江戸時代に使われていたとされる椀



須藤先生による講義の様子

「木地師ゆかりの地」訪問調査を進めています

各地で活躍されている技術者や研究者の方々との交流・ネットワーク化を進めるために、筒井正さん（愛知学泉大学准教授）、櫻井龍彦さん（名古屋大学名誉教授）に依頼して訪問調査を進めています。今年度は、現役の木地師や子孫の方々、役所の担当者へのヒアリング調査や資料収集を行っていただきました。

お会いした皆様は、それぞれに木地師のふるさとである東近江市を大切に思っていてくださり、木地師に関する取組を行っていることへの喜びと期待を寄せていただいています。

全国各地に木地師ゆかりのある土地があり、まだまだ訪問できていない地域もありますが、引き続き調査を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、調査結果は、随時、東近江市ホームページで公開を予定しています。



根羽村（津貝村）事件の舞台
長野県下伊那郡根羽村の油屋



福岡県英彦山唐ヶ谷 筒井神社

「木地師のふるさと アーカイブ・プロジェクト」報告

木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクトでは、貴重な資料や製品に触れることができ、須藤さんから木地師や木地製品に関するお話などボランティアの方々の探究心をくすぐるレクチャーを受けることができると大変好評です。来年度からのご参加も受け付けております。見学だけでも結構ですので、気軽にご参加ください。



【ご参加いただいたボランティアさんからの感想】

文化財に登録するまでのプロセスを知ることができた。

(能登川在住・男性)

地域によって特徴のあるこけしに関心を持った。

(八日市在住・女性)

できるだけ早く調査を終えて、次のステップに進みたい。

(湖東在住・男性)

若い人が活動に参加していて、頼もしく感じている。

(三重県東員町在住・女性)

製作途中のものや道具を間近で見て触れることで、作り手に思いを馳せている。

(大津市在住・女性)

永源寺の木地師のことだけでなく、全国の木地師のことを知ることができてよかった。

(愛東在住・男性)

もっとじっくり資料・製品を見て、勉強したい。

(八日市在住・男性)

木地師の歴史や道具についての逸話を聞いて勉強になった。

(京都市在住・男性)

この活動が蛭谷、君ヶ畑を実際に訪れるきっかけになった。

(能登川在住・男性)

楽しく活動させてもらった。

(大津市在住・男性)

このアーカイブ・プロジェクトは、東近江市で保管している製品や木地師に関する資料に実際に触れて皆で楽しみながら学ぶこと、そして、東近江市が伝統文化を理解し研究できるまちであることを、市民の皆さんに知ってもらうことを目的に立ち上げられました。

木地師は漆器の素地になる木地を作る職人です。多くの木地師が、東近江市の小椋の庄(旧永源寺町)を故郷として思いを寄せています。東近江市では、全国の木地師や末裔の方々と交流を図ったり、木地師に関する資料の散逸を防ぐために資料収集を行っています。現在、市で管理している木地師に関する資料は約 1,000 点を超えるまでになりました。

今回の活動に参加してくださった方々には、まず貴重な資料に直接触ってもらいました。その中で持った疑問や興味のある事柄について、文献等で調べたり、可能であれば製作者や保管者から話を伺ったりしながら、日本における木の文化や森林文化について考えることを大切

にしながら進めています。また、自ら問題意識をもって資料を扱うことも提案しています。

一例を挙げますと、たくさん収蔵されているこけしです。こけしは木地山系、弥治郎系、津軽系、作並系、肘折系、土湯系、山形系、遠刈田系、鳴子系といった系統に分けられています。それぞれの系統にどのような特徴があるのか、それはなぜか、どのような道具を使用していたのか、こけしの工人はなぜ温泉場に多く居住しているのか、といった疑問に向き合ってもらえたらと思います。

この他にも木地師に関するテーマはたくさんあります。興味のあるテーマについて深めていくことは、東近江市や日本の文化を考えていく上で貴重な機会になると思います。

(須藤 護)



左：木地山系こけし
右：遠刈田系こけし

「木地師に関する研究」進捗報告

名古屋市で大蔵製盆所を営む大蔵真さんの工房を訪ねました。真さんで50代目となる木地師の家系です。近江の小椋谷を本貫とする大蔵家は、美濃、信濃などで活躍し、明治になって、信州浪合村から稲橋村井山（現豊田市）に移住しました。

大蔵家が井山に移住したのは、稲橋村の名主であった豪農古橋暉^{ふるはしてゐのり}が、江戸時代天領であった井山地区の払下げを許可され、各地の木地師に呼びかけて、井山での木地稼業を斡旋していたからです。古橋暉^{ふるはしてゐのり}とは、「木地師のふるさとvol.3」で紹介した、木地師研究を始めた^{たなかながね}とされる田中長嶺に木地業の祖神惟喬親王の偉業について調査を依頼した人物でもあります。

しばらくの間、井山では約20軒の木地師が木地挽きに従事していましたが、明治中期になると、再び、原木が底を突き、木地稼業の継続が困難となりました。そこで、真さんの祖父の叔父を総代として、宮内庁へ請願し、段戸山御料林（現設楽町）の原木払下げが認可され、井山から段戸山へ

集団移転し、1920年代頃まで多くの木地師が段戸山で木地稼業を営んでいました。その後、木地師は山を下りますが、戦後名古屋で活躍していた木地師の多くは段戸山の出身だったようです。

木地師が活躍していた三河山間部（設楽町、津具村、足助町）や長野県の伊那谷一帯（売木村、根羽村、喬木町）にも歴訪しました。これらの地域では、菊花紋の入った木地師の墓や住居跡が整備されており、工具や木地製品、綸旨や木地師に関わる地方文書等が地域の重要な歴史・文化遺産として民俗資料館等で保存・展示されていました。

東近江市でも、木地師のふるさととしての役割を果たすため、様々な地域の資料収集や現地調査を通じて、木地師研究を続けていきます。（筒井 正）



菊花紋の入った木地師の墓
長野県下伊那郡喬木村

今年度は、滋賀、三重、愛知、宮城、秋田、福岡、大分の各県を回り、現地の木地師からいろいろな体験を聞き取りました。職歴の長い方は当然高齢になっていて、現在はロクロを挽いていない方がほとんどでした。後継者問題は待ったなしという印象です。

その一方、新しい世代がこの道をまだ存続させているという安心と期待もありました。大分由布市の木地師・時松辰夫さんは80歳を越えていますが、今でも各地で講習会を開き、ロクロ木工技術の伝授と木の文化の発信に努めています。日田市の木地師・矢羽田匡裕さんは、ビジネスとして成り立ち、地域の雇用も生むような木地業のあり方を模索し、新しいデザインの製品に日々挑戦し続けている人でした。

各地を訪れる中で、道具としてのロクロの形態にも注目しました。

今はもうほとんど使われなくなった足踏みロクロを使っているのは三重の高橋力男さんと宮城のこけし職人早川利成さんです。踏み木の踏み方の違いによって、高橋さんは縦（正面）挽き、早川さんは横挽きになります。9月に中国の河北省で木地師調査をしましたが、そこでは椀や盆のような大物は足踏み、鍋の蓋のつまみのような小物は弓ロクロ（弓旋盤）を使っていました。足踏みは縦挽き用のものでした。

ロクロの発明は惟喬親王という伝承がありますが、実際には渡来系の人々が伝えた技術とすれば、朝鮮半島や中国大陆に源流を求められます。

これからの調査の中で、木地師のネットワークが日本国内だけではなく、広くアジアまで広がれば、雄大な「ロクロ文化園」が描けるのではないのでしょうか。（櫻井 龍彦）



高橋さんと足踏みロクロ



早川さん親子と足踏みロクロ



河北省邯鄲市の木地師
と足踏みロクロ

「木地師のふるさと発信事業」報告

全国の木地師文化に関わる地域、技術者や研究者、ゆかりの方々などとの交流とネットワーク化を進めるため、ニュースレターやフェイスブックで情報発信を行い、皆様にも木地師のふるさとの様子をお伝えしてきました。

前回のニュースレターに同封させていただいたアンケートにも多くの方々からの激励や感謝のお言葉をいただきました。

興味深く拝読している。紹介されている土地や施設を訪れたいと思っている。

(福島県)

遠くてなかなか行けませんが、またいつか訪れたい。

(北海道)

過去の木地師のことについて調べたいので、方法を教えてほしい。

(千葉県)

参加できなかったフォーラムの様子がよくわかった。是非一度東近江市を訪ねたい。

(大分県)

木地師のふるさとを守ってほしい。

(東京都)

アジアの国々に共通する木地師文化。もっと多くの人に知ってもらいたい必要がある。

(岡山県)

いつもニュースレターを楽しみにしている。活動の継続と更なる充実を願っている。

(長野県)

私の原点でもあり、応援したい気持ちがいっぱい。

(近江八幡市)

祖先が木地師だったと聞いて育った。フォーラム期待している。是非参加したい。

(高知県)

このお便りにいつも心のふるさとの香りを感じている。

(岐阜県)

今後も、ニュースレターの発行、フェイスブックでの情報発信を随時に行っていきますので、ご覧ください。

Facebookでも情報発信中！

「木地師のふるさと 東近江市」

<https://www.facebook.com/higashiomi.kijishi>



木地師の歴史と文化に関する情報発信や東近江市で行われるイベントのお知らせ、ネットワークづくりのために、Facebook ページを開設しました。ぜひ「いいね」を押してください。



木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番 5 号

TEL (代表) 0748-24-1234 (直通) 0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashiomi.kijishi>

(Facebook では随時、お知らせ等を行っています！！)